



大樹のこころ

目指す児童像

本校の校訓は「あかるく なおく たくましく」で、目指す児童像は「まなぶ子 やさしい子 がまんする子」となっています。これらは校長が決めるのではなく、本校の伝統として脈々と受け継がれているものです。目指す児童像に迫るための、令和6年度現在の取組について紹介します。

【学ぶ子の実現のために】

全ての子が主人公になれる授業を目指しています。「なぜ?」「どうして?」といった問いを中心とした正解を求める授業から脱却し、「～を自分ならどう思う」と尋ねることで、子供の発想や感性を生かす学習を展開しています。また対話的な活動を重視して、自分の思いを友達に伝えたり、友達の意見から新たな気づきを得たりする中で、学びを深めるようにしています。さらに個別最適化学習に即し、「課題に対し自分で考える」→「友達と意見交換する」→「自分なりの考えを持つ」といったサイクルを基本とし、個で始まり個で終わることを大切にしています。そして、より正確で効率的な学びを促進するために、タブレット端末の活用も積極的に行っています。



【やさしい子の実現のために】

授業において、発言する子を見て聴く「アイコンタクト」や友達の意見に「共感する反応」、考えをつなげていく「つけたし発言」を奨励することで、学級内における承認感を高めていくようにしています。友達に「受け入れてもらえる」ということが、相手に対する優しい心を芽生えさせていくことになると考えています。異学年交流も盛んに行っています。高学年が低学年の子と交流することで、同学年の友達に対するときとは違う「温かな感情」が生まれてきます。これが思いやりの心へとなっていきます。また情操教育の一環として、読書活動を推進しています。「あじさい読書月間」「どんぐり読書月間」という季節に応じた活動の他に、読み聞かせボランティア「樹げ夢」の皆さんによる読み聞かせを行っています。物語の世界に浸りながら、子供たちの道徳心を育てています。

【がまんする子の実現のために】

我慢の心を育てるためには、どうしても苦しいことや嫌なことにも取り組んでいくことが求められます。しかし子供の感じ方には個人差があり、全員同じような指導は難しくなっています。そこでWEBQUというアンケートを実施し、個を把握してその子に合ったハードルを設け、チャレンジしていくように進めています。また家康プロジェクト（挨拶・机上無一物・スリッパの整頓・授業参加・雑巾ばさみ）の推進を通して、生活場面において自らを律する心を育てています。

このように子供たちが「まなぶ子 やさしい子 がまんする子」に迫れるように、本校での日々の授業や生活が行われているのです。